

24/5/31 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会
名古屋市民オンブズマンによるメモ（11：16以降）

11：16

名古屋市：議題1資料説明終わる

11：17

北垣：午前中は現場に出かけていろいろ修復過程

見学しつつ、写真に該当する石材検討した

過去のをうまく将来に生かす 全体の構想にかかってくる

現場は大変努力されている

宮武：搦手修復だけでなく、将来の名古屋城石垣

大規模石垣調査するのか？ その都度対応

大天守背面石垣 築石、コンクリート投げ込まれている

先にしておくのは、背面石材の定義

全部同じはいけない

こういった場合どうするか

10年後の職員のためにどうするか

・人為的に石が置かれている

・ランダム

安易に決めないで明記を

フローチャートでいいと思う

現場の石エサイド 「再利用していいよ」どうしてもはつらないといけない

どの程度まで触っていいのか 書いてない

もともとおいてあった石をそのままおいてうまくいくことはまずない

堀の中に落ちた石は？

かつて築石、利用されなかった石 完成していないものだ

外れて配置されていた

一段階文化財の価値が下がる

ふたたび再利用 最低限の加工調整行う 許せると明記したほうがいい

この方針がよいかも議論して

北垣：最初から一番大事な課題 宮武先生定期

千田：基本的には宮武先生の意見に賛成

資料1 (1) 経緯 「流用」さだまったものとは違う

他では「再利用」

「流用」はいかがか 慎重にあるべき

背面にあった検出石材を築石に 2枚目フローチャート

再加工する

本来の石を傷んでいるのを修理するのとはだいぶ違う

石の面 ほつり面も？

手順 刻印面を削れば再利用できるのだが→削るのはやめよう

担当が変わっても名古屋城の方針はぶれない

現場の石垣技術者も迷わず処理できるように

北垣：ほかには

和田さんいかがですか

現場

和田：基本的にはそうでいい

刻印 展示などで

加工 残念石 使ってあげたほうがいい

北垣：ほかには

千田：石材そのものに、「背面検出した石を使った」とつけるのか

和田：再利用、転用、再加工か

千田：チャートで決めたほうがよい

宮武：積みかえた場所とオリジナルの場所 明示しましょう

新規の石材の入れ方 一長一短

板を挟もう→20年でボロボロ

首里城 コンクリートレールで打って鋏で

名古屋城 新旧がわかるような

他は案内板 これがオリジナル

搦手馬出 正面から石垣を見るものではない

完成後のフォローなにがいいのか

ビスを打つのか？

千田：積みなおし始めている できる方法、できない方法

北垣：やってきたことを通して現在どうなのか
先で決める話でもなく、各過程にある 理解できる範囲でも
具体的な対策を考える

名古屋城：新補石材 記載がある
加工石材も同じように

北垣：事務局からそういう案がある

名古屋城：「再利用」という表記が適確

宮武：裏側？

名古屋城：面ではなく裏側

宮武：名古屋城で困っている
昭和の積み上げ どれかわからない
一般人 わからない
安土城 どこ？曖昧
10年もたつとわからない
どこが補修かわからなければ成功
搦手 対岸だと遠すぎる
名古屋城全体のやり方に関わる

名古屋城：記録を取って、時間がたってもどう知らせるか

千田：再利用、新補 積んでしまったら隠れるが、わかるように記して
建築解体修理 焼き入れ「昭和修理」 それに準じるもの
記録までたどれば 昭和修理 散逸している
役所の倉庫 事実上探せない
積みなおし始めている 石の隙間に何か入れるか
目立つのもいかなものか

北垣：時期を特定する

和田：修理の時期を知りたい時がある

東面 わかる
北面はしていない

宮武：3分の2はそのまま残っている

北垣：はいわかりましたではないが、時代の時期を特定できるものを
ブイみたいなものをつけるとか、本体につけて「しまった」も
早く実施を図っていく

千田：背面検出石材 加工をどこまで検討でよいか

北垣：それでよいか

名古屋城：再利用の方針 方向性としてはご了解いただいた
現在進行形 個別にどのような進め方 ご相談させていただきながら
具体的報告という形でフローも上げたい

千田：現場で見た2石はこうで
新しく背面石材 フローチャート 報告ではなくフローチャートを作って審議を

名古屋城：了解

千田：フローチャートを整えたうえで議論

宮武：背面石材 何個くらい転用？

名古屋城：30-40くらい
最大でそれくらい

宮武：現場で考える
次の会議まで待ちましようにはならない？
明らかに刻印、当該期の加工工事 できるだけ再加工しない
最低限の石を組み合わせるための加工はOK 決めないと
全部並べている？

名古屋城：保管している

宮武：全部見ておかないと
基礎方針にのっとってやらないと
次の部会に文書を出してもらう
現場が決まらない

北垣：和田棟梁の現場の支持
全体考える際の基準になる

11:45

北垣：次の課題

名古屋城：石垣保存方針策定について 資料2
導線部分の石垣について
（2）石垣に対する評価案
（3）現況評価に対する対応策案
石垣365面にあてはめたい

導線付近石垣 5 ページ

保存方針策定に先駆けて安全対策

6 ページ 図

茶色が主要導線

導線の下が青

導線の上がピンク

変状が目立つのが7ページ目

5 ページ目表2 対策

①石垣面ふくらみ モニタリング→立ち入り禁止検討

②表面の割れ ネット設置検討

③間詰石の抜け 間詰石補修、ネット設置、樹木伐採検討

④積みなおし石垣変形 モニタリング→立ち入り禁止検討

S10-U66 別途検討

来場者に影響が大きい

名古屋城：資料訂正

1 ページ目 名古屋城跡内の

11:56

北垣：ご意見を

千田：説明ありがとう

三の丸 中日新聞に入る 土塁断面 今回の検討対象に入らないのか

名古屋城：三の丸石垣 していない

千田：していないから聞いている

1 ページ目 対象石垣に入っていない どうしてですか

名古屋城：具体的には

千田：中日新聞 市役所にいくところ

対象に入らないのか

名古屋城：特別史跡内

千田：三の丸の堀の中は特別史跡ではないか

微妙なライン

史跡内

名古屋城：書きもらし

千田：現状はまずい

変形・変状をどうするか 保存方針、導線ではなく

早期に把握して的確に対策する

現状でいうと、大きな地震のとき 導線の安全対策をどうするか検討

対策しないと、本丸御殿の脇東 逃げ場がない

石垣そのものに大きな変状はない

大きな地震 落成の可能性

土日の大勢なお客様 被害が避けられない

原案作って議論しないと十分ではないと思う

12:00

宮武：石垣カルテを見ていない

危険度評価はそれから（一部略）

12:07

北垣：整理の仕方が
段取りもう一度

西形：従来名古屋市がやった
文化庁 耐震マニュアル出している
予備診断にあたる
判断の基準が違う
実施しなければならないと思う
文化庁のマニュアルとの整合性を考えて
耐震マニュアルに乗っかるのか、

名古屋城：事務局 2 ページ どうなのか
近々の危険度 あとの案
表がこのようでよいのか
天守台の検討
文化庁が去年指標だした
名古屋城 これがよいのか

宮武：石工と行ったか？

名古屋城：いっていない

宮武：素人の判断

西形：間詰石が抜けている
どの程度？
カルテを部会で見たうえで判断する
将来の判断に関わる

宮武：文化庁 耐震診断も
客観的に判断
現物を見ると当てはまらない
プロの石工が見て危ない
マニュアル化したいが、そうではなく
石工と石垣部会が現地で見ても危険度を評価しないと
現実的には千差万別

南海トラフ 逃げ場があるのか

12:16

名古屋城 石垣保存の手引き

宮武:何をやるかは考えてないという回答が来るとは

名古屋城:頭の中に出てこない

宮武:解体か非解体かどちらか

エ 大修理

ア 「応急的措置」不健全

簡易か簡易じゃないか

現状の劣化を止める

鉄筋挿入、樹脂、セメント 石材を固定化する

名古屋城が把握して、この石材にはこれを使う

共有できてないと誤解が生じる

「まだ考えてない」想定してなかった

どういう方式か 延命手術ならどうするか

事務所内部で整理して

どうして樹脂を使うか 可逆的なのでできる

事務所がはっきりもたないと

誤解を生じる

西形:応急処置 間詰かな

安全性の向上を考えないと

見学路を離す 応急処置

マニュアル 安全な通路を確保できれば石垣は触らなくていい

方向の整理を

宮武:図1

安全を確保するために物理的にこうする 作ってなかった

トータル リスクの考え方

千田:ご指摘のとおり

新しい石垣 中日新聞と県図書館 切った石垣 崩れると県警本部など車両など通行できなくなる

熊本地震

桁形 集中的に崩れる

検証外

熊本 4 方向全部崩れた

地震前 変状はなかった

計画を立ててもなんの役にも立たない

補強、高さ ✕ □ なんとか 距離を取り、石垣は触らないのか

場内建物 西南、東南隅櫓など 杭などは打ってない

石垣が崩れれば建物も崩れる

来場者安全+建物の安全

建物に人が入る

櫓が地震時に堀に崩れ落ちる可能性

いざという時に役に立たない

宮武:文化庁、石垣カルテ

全国修理 明治大正石垣の悪さ

工学時間がかかる

五稜郭 弘前城

技術が途絶える

名古屋城 明治大正石垣が多い

危険因子 把握した方がいい

北垣:せっかく資料 保存方針策定について

中身は具体性が出てこない

進めるについてはまず名古屋市としてなにをどう進めるのか整理した方がいい

そこから進めないと

地球そのものが 熊本地震続いている

名古屋の置かれている条件をみてから

議論になりにくい

千田:おっしゃるとおり

図 u66 s10 状況が悪い

ハラミ 発掘している

根石がない 安定性がない

調査成果が反映されていない

出していただくのは必要

問題

間が導線 現状で危ない

組織総力をあげて判定

「市の独自で」文化庁の基準に沿って

石垣予備調査 わかりやすく示して

宮武:方針は長くない

スキームの整理 そこがない

作り方のメニュー

現況の動線 将来的に整備 将来の動線を

体育館がどうなるか 勘案して 何年か先の動線 5年先には使えなくなる

名古屋城:ご指摘ありがとうございます

動線 ベースがない中出した

ベース 評価の仕方 文化庁指針をベースにしつつ作る

委員の先生ご多忙

評価案を作って確認してもらう

発掘調査、近代文献調査も

石垣保存方針ビジョン もう一度検討したい

宮武:石垣部会の仕事は本来これ 搦手馬出検討委員会ではない

天守台石垣検討委員会ではない

ここで詰めていい メイン

名古屋城:ご協力よろしく

北垣:整理して

見学にたくさん来ている 安全をどうか 石垣をどう対策するか

話はこれでいいか

名古屋城:本年度は毎回議題としたい

12:39

北垣:なにかあるか

名古屋城:貴重な意見ありがとうございます 搦手馬出

北垣:オブザーバー

尾崎:具体的な話たくさんあったまずは整理して文化庁調整も

名古屋城:今後引き続き、方針も考えたい
議題は以上

12:41